



プロジェクト名称

旧山古志村の未来を考えるプロジェクト

プロジェクト活動概要

昨年度までの活動を通して、アルパカ牧場をはじめとする山古志の魅力を人々に伝えることができました。復興のためにこの村に送られてきたアルパカは新たな地域資源として定着し、村の人たちの生きる力となっていることを感じました。

今年度は東日本大震災の復興のためにアルパカが福島県にも送られたということから、実際に復興に成功した山古志と、今まさに復興に取り組んでいる東北も視野に入れ、活動していきたいと思います。

また、4年間の活動を振り返り、もう一度原点に戻って住民とのつながりをより密なものにしたいと思いました。現地での会話や活動を積極的に取り組み、しっかりと現地に還元できるような提案をしていきたいと思っています。

活動状況報告&活動写真など 活動期間：2013年6月1日～9月30日

7月7日

豊洲校舎にて、子供や家族向けのワークショップを行いました。

約10cm×35cmの短冊状の板にアルパカの下絵を彫り、そこに思い思いの色をペンキで塗ってもらいました。

また、デザイン系の学生のスキルを活かし、子供たちの写真と牧場の写真を合成させたポストカードを、イベントの最後に渡してあげるという企画も取り入れました。昨年参加して下さった家族や子供もいて、地域の人たちとのつながりが見えてきたような気がしました。

大人の方は山古志村のアルパカ牧場に興味を持ってくださり、また少し山古志村を東京に伝える活動ができたと思いました。

(写真は作業風景)



8月20～24日



山古志村にてメンバーの夏合宿をしました。

①豊洲ワークショップで子どもたちに作ってもらったアルパカ板を使い、アルパカ牧場の新しい娛樂ツールとして、大小2つのテーブルを作成しました。何度も会議を重ね、大人から子供までたくさんの利用方法が生み出せるようなデザインに決定しました。現地では集落の方たちと力を合わせながら作業をしました。

②牧場周辺の調査や、住民との話し合いを繰り返しながら、私達学生の力でこのアルパカ牧場をより良い環境にするにはどうしたら良いか、模型やスケッチをしながらスタディをしました。大学院生と4年生は牧場全体のデザイン、3年生は牧場のシンボルになるような看板のデザインを考えました。

また、決まった内容を住民や牧場の方にプレゼンし、これからの活動の方針なども話し合いました。

③最終日には提案した看板の作製を、新メンバーの3年生中心に行いました。3年前の看板が老朽化してしまっただのをうまく再利用し、新たに明るい看板が出来上がりました。これは牧場の入口となる場所に設置されました。



9月後半

新学期が始まってから、合宿の反省会や今後の活動についての話し合いをしました。

今後の活動計画、目標、意気込みなど

- ①10月23日に行われる追悼式に向けて話し合いを行い、当日は追悼式のお手伝いをしに行く。
- ②11月の芝浦祭での屋台の準備・話し合い・当日運営
- ③豪雪地帯により、冬の牧場運営は厳しいため、12月で休園→その手伝いをしに行く。

今回の夏合宿で、山古志アルパカ牧場の全体のデザインをやらせてもらえることになったので、実際に自分たちで休憩所などの建物を建てる計画が挙がっています。今年度中には実現することは難しいですが、来年度チャレンジしてみたいと思っています。